松本市文化財調査報告No.195

長野県松本市

HIRATAHONGŌ

平田本郷遺跡

— 第6次発掘調査報告書 —

信州大学附属図書館
定期刊行物

2008.3

松本市教育委員会

例言

1　本書は、長野県松本市平田西２丁目222番１他において、平成18年10月４日から平成18年12月５日の間に行われた平田本郷遺跡(ひらたほんごうーいせき)第６次調査の報告書である。

2　本調査は、松本市による平田駅西口線道路築造工事に先立ち、松本市教育委員会が行った緊急発掘調査である。

3　本書の執筆はⅢ３（1）直井雅尚、Ⅲ３（2）三村竜一、その他を内田陽一郎が担当した。

4　本書作成にあたっての作業分担は以下のとおりである。

遺物洗浄：百瀬二三子　　土器接合：竹平悦子、前沢里江　　金属製品保存処理・復元：洞澤文江

土器実測：白鳥文彦、前沢里江　　トレース：久根下三枝子　　金属製品実測・トレース：荒井留美子

石器実測・トレース：内田陽一郎　遺構図整理：内田陽一郎

写真撮影(遺構)：三村竜一、岡崎武祥、内田陽一郎、宮嶋洋一　　写真撮影(遺物)：宮嶋洋一

5　石器の材質鑑定及び地質に関する事柄については森　義直氏に御教示いただいた。

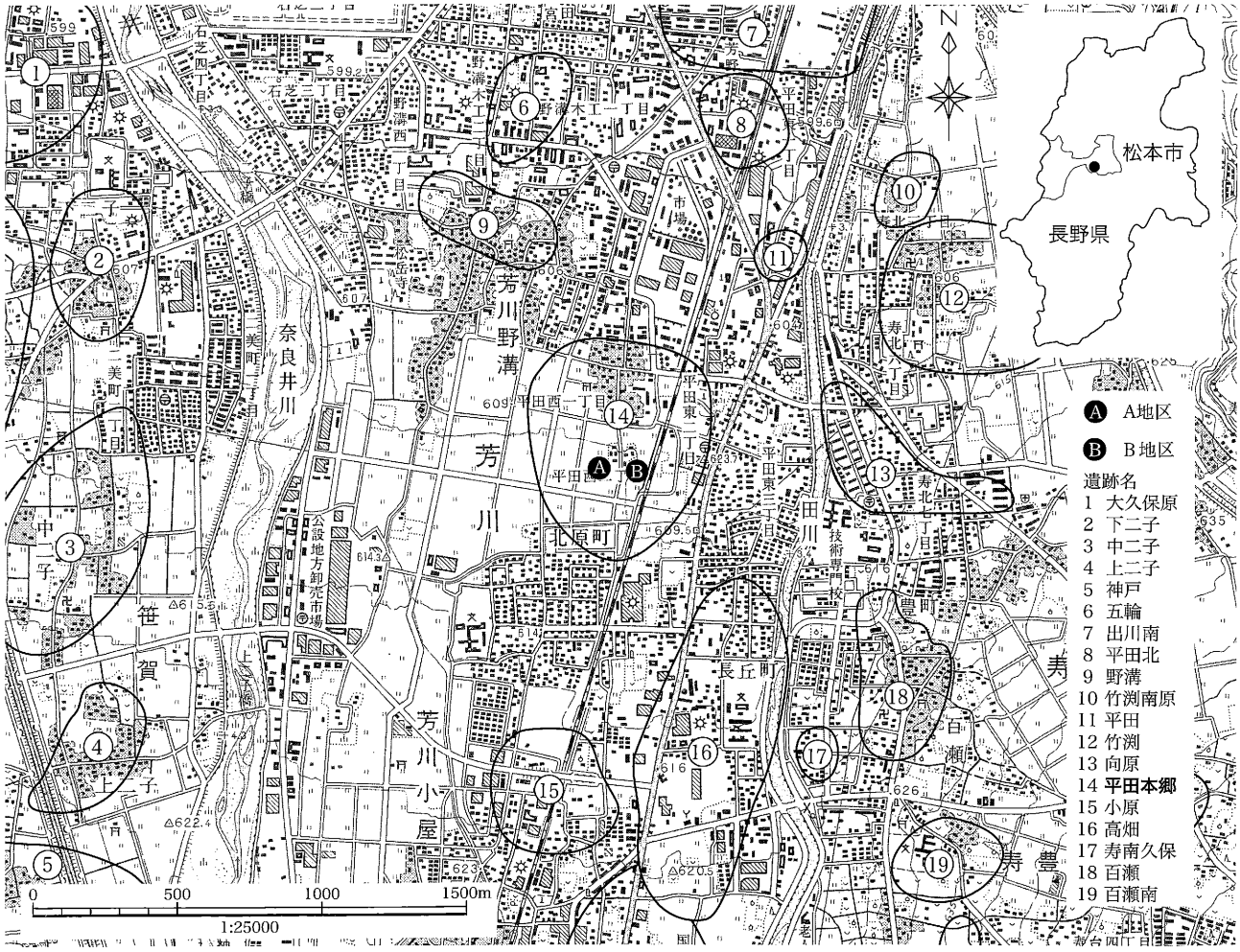
6　本書の中で使用した遺構名の略号は次のとおりである。

第○号住居址→○住　第○号土坑→○土　第○号ピット→Ｐ○

7　本調査で得られた出土遺物及び調査の記録類は松本市教育委員会が保管し、松本市考古博物館に収蔵されている。

松本市立考古博物館：郵便番号390-0823　長野県松本市大字中山3738-1

電話番号0263-86-4710　FAX番号0263-86-9189



第1図　調査地区の位置及び周辺遺跡

Ⅰ　調査の経緯

1　調査の経過

平田本郷遺跡は、松本市芳川地区に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地である。過去５回の発掘調査結果から、古墳時代前期・中期、奈良～平安時代前半・後半、中世にかけての複合遺跡とされている。こうした中、松本市による平田駅西口線道路築造工事が計画された。道路築造予定地は埋蔵文化財包蔵地のほぼ中心に位置し、隣接地の過去の発掘調査結果から予定地にも遺構が存在することが予想された。そこで松本市教育委員会と事業担当課で協議を行い、事前に発掘調査を実施し記録保存を図ることとなった。文化財保護法第94条に基づく「通知書」は、平成18年９月25日付長野県教育委員会宛てに提出された。通知に対しては長野県教育委員会より発掘調査の指示が平成18年10月10日付で通知されている。

松本市教育委員会では次節に示したような発掘調査団を組織して平成18年10月４日から同年12月５日まで現地で発掘調査を実施し、終了後は室内における整理作業及び本報告書の作成を行い、平成19年度本報告書を刊行するにいたった。

2　調査体制

調査団長　伊藤　光（松本市教育長）

調査担当者　三村竜一（文化財課主任）、岡崎武祥（同嘱託）、内田陽一郎（同嘱託）

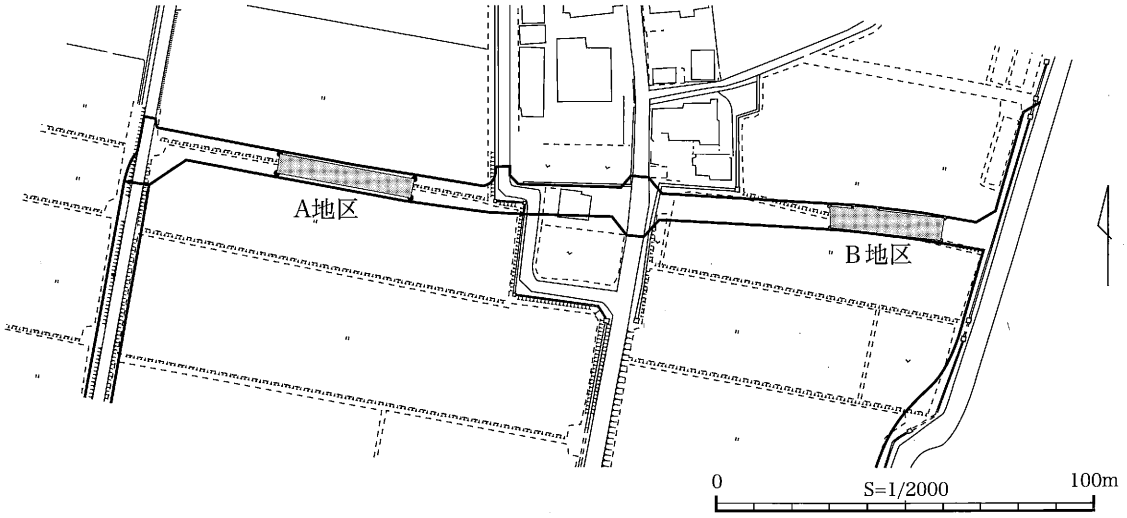
調査員　今村　克、三村　肇、宮嶋洋一、森　義直

協力者　翁像　薫、勝川順一、河野清司、下条ちか子、中村恵子、中山自子、福島　勝、藤田昌幸、古屋美江、三代沢二三恵、三代沢宗俊、百瀬　寛、百瀬二三子

事務局　松本市教育委員会文化財課
宮島吉秀（課長）、横山泰基（係長）、直井雅尚（主査）、関沢　聡（主査）、櫻井　了（主事）、花村かほり（嘱託、～平成19年３月）、柳澤希歩（嘱託、平成19年４月～）

平田本郷遺跡調査履歴

調査	期　　間	報　告　書
1次	平成5年11月9日～平成6年3月24日	1994『松本市平田本郷遺跡　-緊急発掘調査報告書-』
2次	平成6年5月10日～平成6年5月24日	1995『松本市平田本郷遺跡Ⅱ　-緊急発掘調査報告書-』
3次	平成9年12月11日～平成10年3月24日	1999『長野県松本市 平田本郷遺跡Ⅲ　-緊急発掘調査報告書-』
4･5次	平成13年5月9日～平成14年1月12日	2003『長野県松本市 平田本郷遺跡Ⅳ・Ⅴ　-緊急発掘調査報告書-』



第2図　調査範囲

II　遺跡の環境

1　地形

調査地区は北上する奈良井川と田川に挟まれた複合扇状地の扇央部（やや田川寄り）に位置する。（第１図）地形面は平坦で、標高値はＡ地区 609m、Ｂ地区 608m 前後で東北東にゆるく傾く。発掘調査以前は両地区とも水田として利用されていた。

2　地質

調査地区周辺は、奈良井川と田川の扇状地性堆積物から形成されており、西方を北流する奈良井川の氾濫原に属するとされている。調査地区内の基本的な土層堆積は、現地表から下 30 ～ 40cm は現在の水田耕作土とその造成土（第３図１～５層）、その下に鉄分沈着のみられる雨水により洗い出された粘質土（第３図６～ 15 層　下部は砂質が強くなる。色調・粒度で複数層に分層可能）、さらにその下、現地表から 80 ～ 100cm 下に砂礫層（第３図 16 層）が堆積する。砂礫層中の礫は砂岩・硬砂岩・粘板岩・チャート等で構成される。土層堆積は、Ａ・Ｂ両地区とも基本的には同じ様相を呈するが、砂礫層の供給源はＡ地区が奈良井川系、Ｂ地区は田川系である。

引用参考文献
松本市教育委員会 1994『松本市平田本郷遺跡　- 緊急発掘調査報告書 -』pp7 ～ pp9
松本市教育委員会 1999『長野県松本市平田本郷遺跡 III　- 緊急発掘調査報告書 -』pp3 ～ pp5

III　調査結果

1　調査の概要

調査対象地は幅の狭い道路築造用地のため調査期間等の制約からＡ・Ｂ地区の２地区（第２図）に分けて、Ａ地区、Ｂ地区の順で発掘調査を実施した。

Ａ地区は調査範囲設定後、東側に重機で試掘坑を２ヶ所設けて遺構の有無を確認した。その結果、遺構と推定されるものが確認され、現地表下 40cm 付近を検出面とし重機による表土剥ぎを行ったところ、調査区中央を東西に走る溝状遺構が検出された。その後、調査区内に 15 本のトレンチを設定し、溝状遺構の断面観察及び下層遺構の有無の確認を行った。その結果、溝状遺構としたものは自然の溝状地形に古代・中世の遺物を含む堆積物が溜まったものと判断した。各トレンチにおいて現地表下約 80 ～ 100cm の砂礫層まで掘り下げを行ったが、下層に明確な遺構は確認できなかった。調査区壁面及び各トレンチ壁の土層を記録し、本地区での発掘作業を終了した。遺物は土器片 118 点、金属製品２点が出土した。本報告書では紙面の都合上、本地区の遺構・遺物についての詳細は割愛した。

Ｂ地区は調査区南壁沿いに重機で３ヶ所の試掘坑を設け遺構の有無を確認した後、さらに東壁と南壁沿いにＬ字トレンチを設けて遺構の確認と検出面の設定を試みた。明確な遺構は確認できなかったが、土器片を多く包含する土層（第３図 10 層）が確認された。この層を少し掘り込むかたちで重機による表土剥ぎを実施し、11 層上面での遺構検出を試みた。その結果、土坑１基、ピット８基、焼土範囲２ヶ所を検出した。遺構掘削を終え北壁沿いにトレンチを設け東側から人力で 11 層の除去及び下層遺構の検出を試みた。その際、北壁沿いのトレンチにカマドが検出され、11 層をやや掘り込むかたちで第１号住居址を検出した。11 層掘削中及び 13 層、16 層上面で竪穴住居址１軒、土坑９基、ピット 21 基を検出した。遺構覆土と地山土の差が不明瞭なものが多く、11 層掘削中及び 13 層、16 層上面で検出された遺構の中には 11 層上面で検出できなかった遺構もあるものと推測される。よって本報告書では敢えて検出面での遺構の新旧は触れないこととした。本地区では概ね 5cm 以上の遺物・拳大以上の礫は全て三次元座標記録を取る方針で作業を行った。

2　遺構

(1) 第1号住居址（第4図）

11層中で検出。一部調査区域外にでるが、平面形は隅丸長方形プランである。掘方は16層(第3図)の砂礫層を掘り込む。床は不明瞭であったが、掘方直上を床とした。住居内遺構はカマド以外検出できなかった。カマドは東壁北東隅に位置し、比較的残りの良い石組みカマドで石材は硬砂岩が主体である。比較的大形の礫を両袖に配置し、その礫の上にやや小形の礫を積み上げてある。天井石は覆土埋没後に折れた状態で検出された（第9図)。カマド内には、両袖から崩れたと推測される礫が入り込み、その礫を除去すると176点の土器片が出土した（第4図)。火床は不明瞭。住居址覆土からは、土器、金属製品、砥石が出土した。土器はカマド周辺及び西側付近に集中する（第4図)。金属製品は鎌、鏃、釘、鎖等と鉄滓があり、釘、鏃、鎌、釘が銹着した状態で出土した。出土土器の時期は中央自動車道長野線松本地区編年の14期～15期と推定される。

(2) 土坑・ピット(第5図)

最大径50cm以上のものを土坑、50cm未満のものをピットと仮称した。8土、P4、6～12は11層上面で検出されたが、調査区壁にかかるものがないため、掘り込み面は不明である。8土は当初11層上面で検出され完掘したが、1住覆土の掘り下げ時に8土特有の覆土層が確認できたため、誤認と判断し、あらためて範囲を確定した。11土は、11層掘削中に検出され、底面に焼土面が確認された。16土は11土完掘後の11層掘削中に検出された。覆土中に礫、礫片を多く含むもので、11土と本来同一土坑であった可能性もある。11土、16土出土の礫片は1住覆土の礫片と接合関係を持つ（第9図)。P16～37はやや定形的なもの。11層下部付近でやや色調の変化がとらえられたが、不明瞭であったため11層を除去した後検出した。調査区東側で検出されたもの（P16、20、23、28）のように、位置関係に意味づけできそうなものもある。

(3) 焼土範囲(第5図)

土坑、ピットのように掘り込みはなく、焼土が分布するもので、11層上面で2ヶ所確認した。焼土範囲2は10土の覆土の一部をとらえた可能性がある。

3　遺物

(1) 土器・陶磁器（第6・7図、第1表)

器種・器形　104点を図化提示した。古代の土器・陶磁器には土師器(黒色土器を含む)と須恵器、灰釉陶器、白磁がある。土師器の器種は食器類に杯・椀・皿・耳皿・盤・鉢、煮炊具に羽釜があるが、食器類が大半を占め、煮炊具はわずかしかない。杯は口径8～11cm、器高1～2.5cmの範囲に収まる小形の杯AII、口径12～15cm、器高4cm前後の範囲のやや大形の杯AIIIがある。杯AIIには、かなり偏平で皿として扱った方がよいものも含めている。椀は高台を有すもので、内面黒色、内外面黒色の黒色土器A・Bが含まれている。皿は高台を持たない、杯形の大形・偏平のものを皿AIと扱った。端部が強く外反するものが多いのが特徴である。口径14～17cm、器高2.8～4.2cmの寸法を持つ。小形の皿AIIは前述のとおり杯と混同している。盤は皿に高台が付された形態で、大形の盤Aと小形の盤Bがあるが、盤Bは杯部が偏平な椀と区別がつかない。須恵器は図示できたものはないが、杯Bの底部破片が数点あり、9世紀前半を遡るものと考える。灰釉陶器は第1号住居址から1点、包含層から3点が出土している。全形がわかる第1号住居址のものは深椀である。他の個体には底面に回転ケズリ痕跡が窺えるものがあり、若干、時期的に遡る可能性がある。白磁は検出面から1点が出土している。単純口縁の椀になると推定する。中世に属するものはいずれも小片で図示できないが、東海系無釉陶器の捏ね鉢、須恵質の甕胴部、青磁碗などがある。

土器群　第1号住居址出土品は覆土下層のカマド周辺及び西側付近に集中しており、出土状況からほとんどが住居廃絶前後に廃棄されたものと考えられる。図化92点を数え、良好な資料と言える。提示した食器類の器種・器形の数量と構成比は次のとおりである。杯AII：41％、杯AIII：10％、椀：22％、皿AI：16％、盤A：2％、盤B：5％、その他：4％。これらの土器群の時期的な特徴は、杯AIIの一部が皿形化していることと、底部が突出する皿AIIが存在しないことである。これは皿AII出現以前と捉えるか、皿AIIが形態変化して原形を失い、杯AIIと区別がつかなくなった後と捉えるべきかの問題に帰すると考えるが、皿AIの端部つまみ上げ形態が失われている点などからみて、後者の見解を採りたい。したがって、中央自動車道長野線松本地区編年の14期から15期に相当すると考える。ただし、該期は資料の蓄積と分析が充分とは言えず、今後に検討の余地を残している。

参考文献

松本市教育委員会1999『長野県松本市平田本郷遺跡III』

長野県教育委員会1990『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4－松本市内その1－総論編』

(2) 金属製品(第8図、第2表)

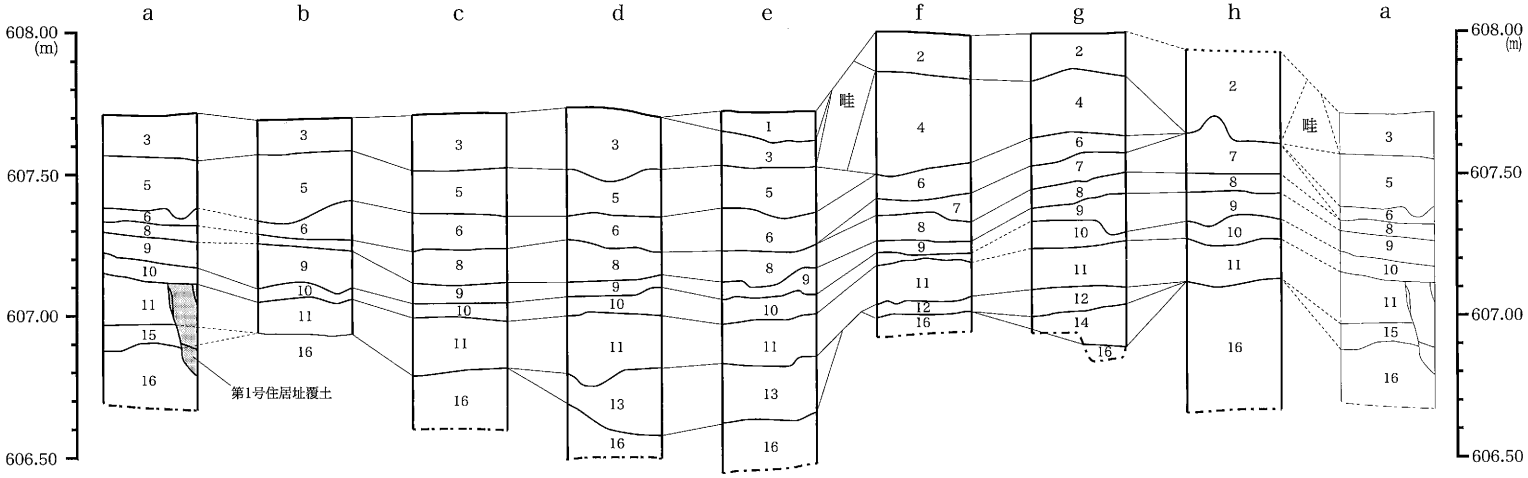
今回の調査では、24点の金属製品が出土している。種類は鏃、鎌、釘、鎖、銭貨、鉄滓がある。金属種別は鉄、銅がある。実測は全形がうかがわれるもの、特徴的なものを中心に行い、1住出土の13点を提示した。その内、南西部覆土下層から出土した1～9（実測図No.以下同）の9点はまとめられていた可能性が高い。2・3、5～9は銹着し、5～9は釘（9）の長軸に合わせてまとめられている。出土状況は2・3の直上に1・4が重なり、5～9は2・3の10cm西に近接していることから、1～9は容器や袋等に入っていたと考えられ、鉄製品の再利用を目的として集められたものかもしれない。

第1号住居址出土品（第8図、第2表）　鏃は3点ある。2は刃先と茎部が欠損した雁又鏃の破片である。3は身部破片で、両丸造あるいは平造と思われる。11は長頸鏃の破片で、頸部～茎部が残存する。鎌は5点ある。4は先端部が欠ける。刃部で人為的に折りたたまれている。5～7は同一個体の鎌で、基部から刃部に向け徐々に増幅している。8は刃部破片で、比較的薄い。釘は2点ある。1は頭部が残存する角釘の破片である。頭部を直角に折り曲げ、平坦面が作り出される。9は角釘の破片で、基部上端を叩き延ばし、折り曲げている。13の鎖は長楕円環が5個連結し、塊状に銹着していた。錆膨れがあるが、断面形は長方形と思われる。楕円環の端部は、全て接していない。10は器種不明品の小破片である。断面形は長方形の部分と方形の部分があり、境界部分で屈折する。形状から鎖の一部の可能性がある。12は器種不明品の破片で、全体ではT字形を呈している。折り曲げられてヘアピン状を呈する部品が、片端部に長方形の穴があく棒状部品に通され、銹着している。ヘアピン状の部品は折り返し部分に長径6.1mmを測る楕円形の穴があり、反対側の先端部に向け徐々に減幅・減厚する。長方形の穴があく棒状部品も、反対側の先端部に向け徐々に減幅・減厚する。断面形は、どの部分も概ね長方形を呈する。鉄滓はカマド内を中心に8点が出土し、合計112.8ｇを量る。鉄器・鉄滓の出土状況から、1住周辺には鍛冶遺構の存在が推定される。

(3) 石器(第9図)

研磨面の確認できたものを砥石とし3点を図化した。全て1住覆土中から出土した。

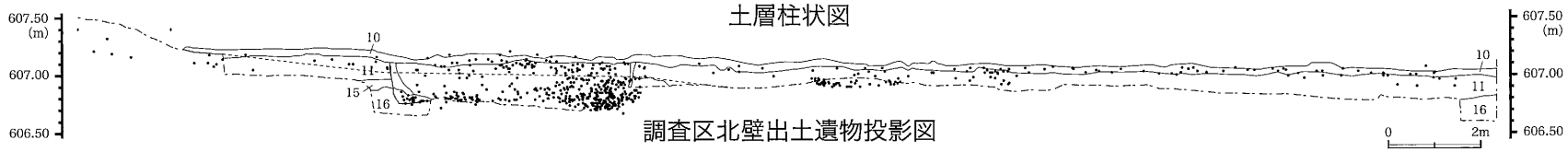
1住出土の礫について　16層中の礫より大きいものが多く、円礫が主体を占める。カマド周辺に比較的多く分布する。完形の礫と剥離面の観察できる礫(以下礫片とする)があり、被熱し変色したもの、ススの付着したもの等が出土した。礫片に関しては現場での記録を終えた後、取り上げ、合計66点の礫片を回収した。剥離面の多くは被熱剥離によるもので一部打撃による剥離面を持つものもある。接合関係は第9図で示した。



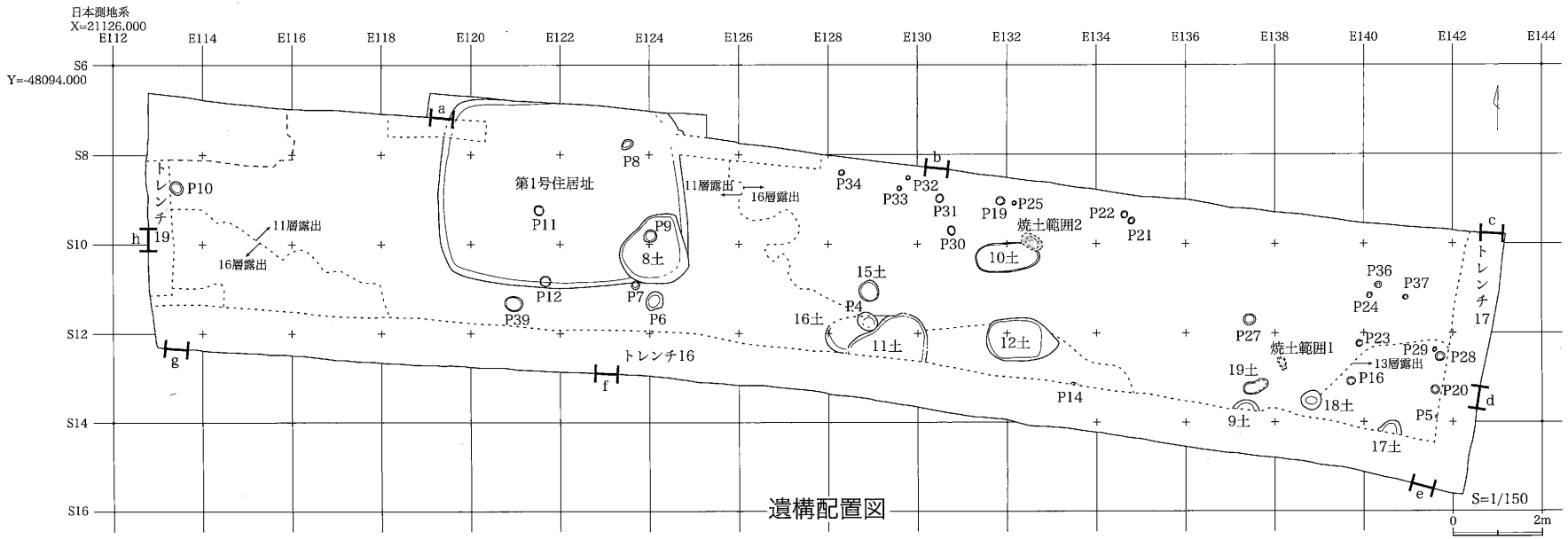
土層柱状図

柱状図土層
1 暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）現耕作土
2 黄褐色粘質土（2.5Y5/3）現耕作土
3 黄褐色粘質土（2.5Y5/3）現耕作土
4 黄褐色粘質土（2.5Y5/3）水田造成土
5 黄褐色粘質土（2.5Y5/3）水田造成土
6 暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）7.5YR4/4土粒多量混入
7 黄灰色粘質土（2.5Y5/1）7.5YR4/4土粒多量混入
8 黄灰色粘質土（2.5Y6/1）7.5YR4/4土粒多量混入
9 黄灰色粘質土（2.5Y5/1）7.5YR4/4土粒混入
10 暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）7.5YR4/4土粒多量混入、土器片多く含む
11 暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）7.5YR4/4土粒多量混入
12 黄灰色砂質土（2.5Y5/1）7.5YR4/4土粒混入
13 灰黄色砂層（2.5Y6/2）
14 黄灰色粘質土（2.5Y5/1）7.5YR4/4土粒多量混入
15 黄灰色砂質土（2.5Y4/1）
16 灰黄色～暗灰黄色砂礫（2.5Y6/2～5/2）土混入、礫径～100mm

調査区中央から東にかけて10層から11層上面で約700点の土器片が出土した。分布にかたよりはなく、5cm以下の小破片が主体を占める。時期の特定できる遺物は少ないが古代のものがほとんどで中世以降の遺物は混じらない。引き続き11層を面的に掘り下げたが遺物は上面付近に分布するのみであった。



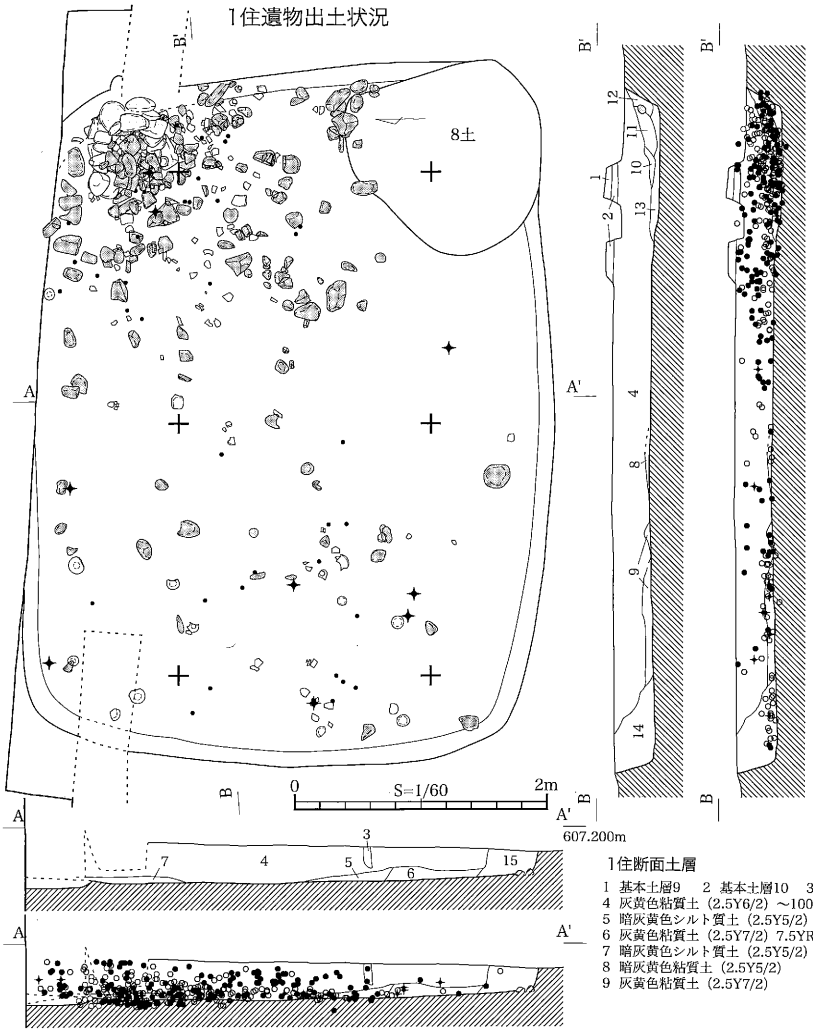
調査区北壁出土遺物投影図



遺構配置図

第3図　B地区土層柱状図・調査区北壁出土遺物投影図・遺構配置図

1住遺物出土状況



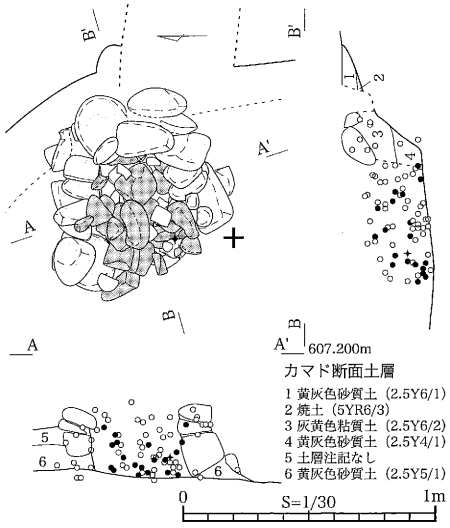
平面図遺物表現

土器	輪郭稜線	
	点で記録したもの	•
金属製品	すべて記号	✦
礫	輪郭稜線＋濃い塗り	
	輪郭線＋濃い塗り	
石器	礫と同じ	
カマド礫	輪郭稜線＋薄い塗り	

断面投影遺物記号
- ○ 土器
- ✦ 金属製品
- ● 礫及び石器
- ○ カマド礫

断面図に投影した出土遺物のドットは遺物の下端レベル値をドットの中心にして作成

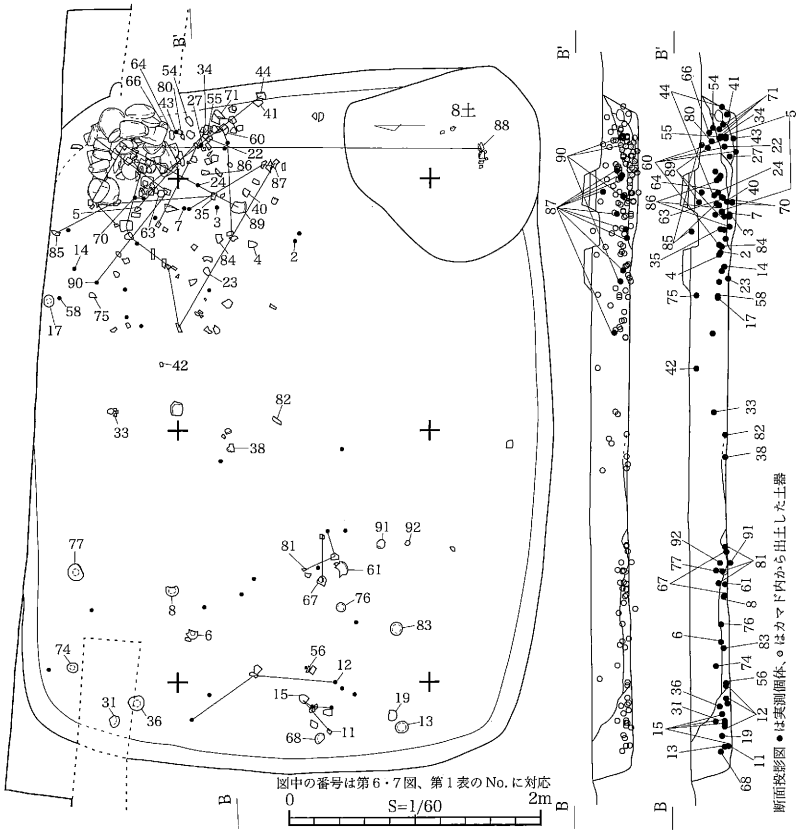
カマド及び遺物出土状況



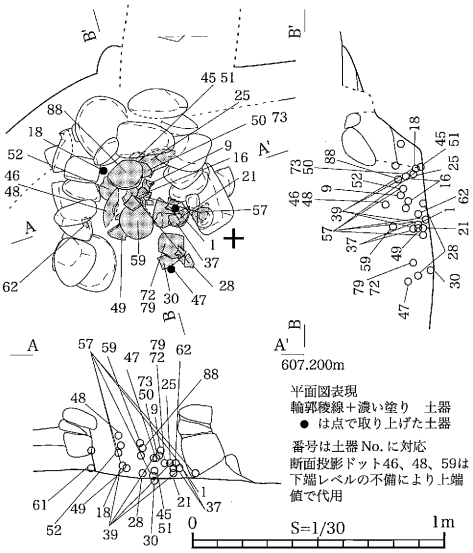
カマド断面土層
1 黄灰色砂質土（2.5Y6/1）
2 焼土（5YR6/3）
3 灰黄色粘質土（2.5Y6/2）
4 黄灰色砂質土（2.5Y4/1）
5 土層注記なし
6 黄灰色砂質土（2.5Y5/1）

1住断面土層
1 基本土層9　2 基本土層10　3 土層注記なし
4 灰黄色粘質土（2.5Y6/2）～100mm大の礫混入
5 暗灰黄色シルト質土（2.5Y5/2）
6 灰黄色粘質土（2.5Y7/2）7.5YR4/4土粒混入
7 暗灰黄色シルト質土（2.5Y5/2）
8 暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）
9 灰黄色粘質土（2.5Y7/2）
10 にぶい黄色砂質土（2.5Y6/3）焼土粒、炭化物混入
11 灰黄色粘質土（2.5Y6/2）焼土粒混入
12 灰黄色砂礫土（2.5Y6/2）5mm大の礫混入 土混入
13 灰黄色粘質土（2.5Y6/2）焼土粒混入
14 暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）～100mm大の礫混入
15 暗灰黄色シルト質土（2.5Y5/2）～100mm大礫混入

1住土器出土状況



カマド内土器出土状況

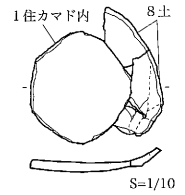


平面図表現
輪郭稜線＋濃い塗り　土器
● は点で取り上げた土器

番号は土器No.に対応
断面投影ドット46、48、59は下端レベルの不備により上端値で代用

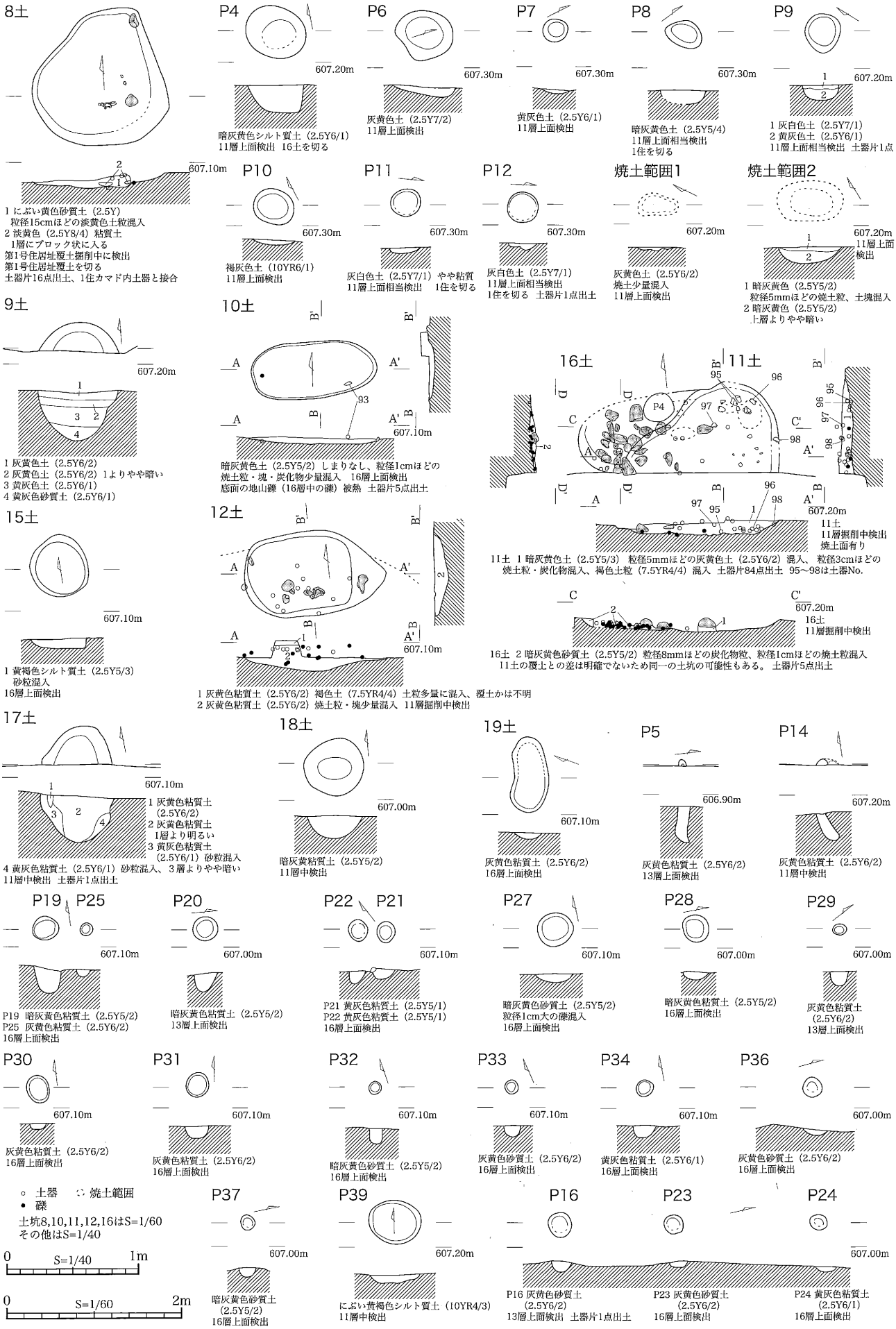
出土遺物は平面記録後原則1点につきひとつの番号を振り、取り上げた。土器片に関しては、出土状況から近接する複数の土器片に対して同一個体と推測されたものにかぎり同じ番号を振り一括で取り上げた。その結果、同一の出土位置で複数の土器No.が付される平面図となった。

カマド内出土の土器片は平面記録のあるもの以外に約60点出土。出土状況と接合作業の結果から破片の状態でカマド内にあったものと推定される。器種は杯、Ⅲ、椀、盤と様々で、特異なものとして円盤状に残った土器底部の破片（59、88）が出土している。88に関しては（右図）、円盤状に残った底部以外の接合破片は1住覆土を切る土坑（8土）から出土した。



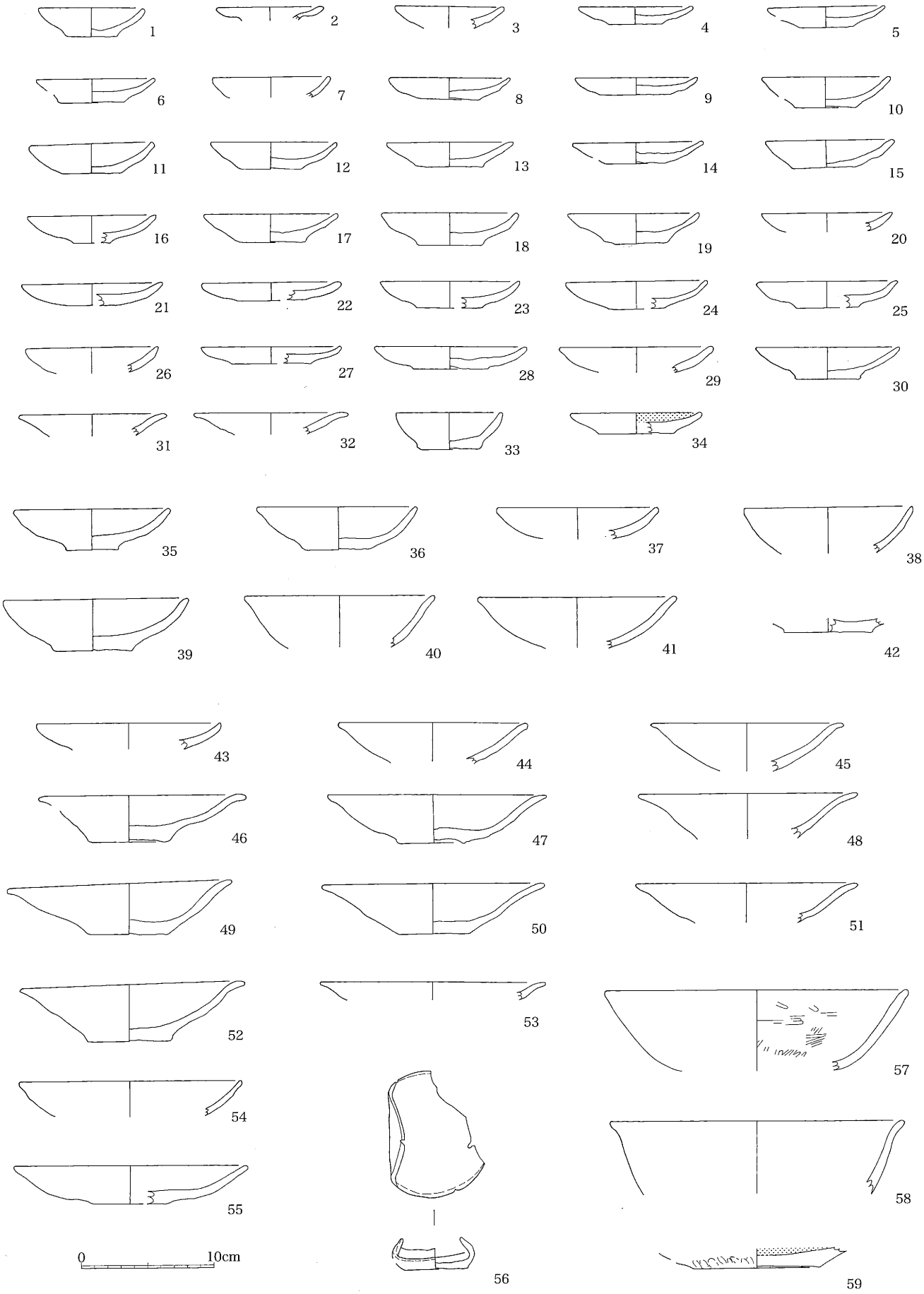
88 土器片接合状況図

第4図　検出遺構（1）

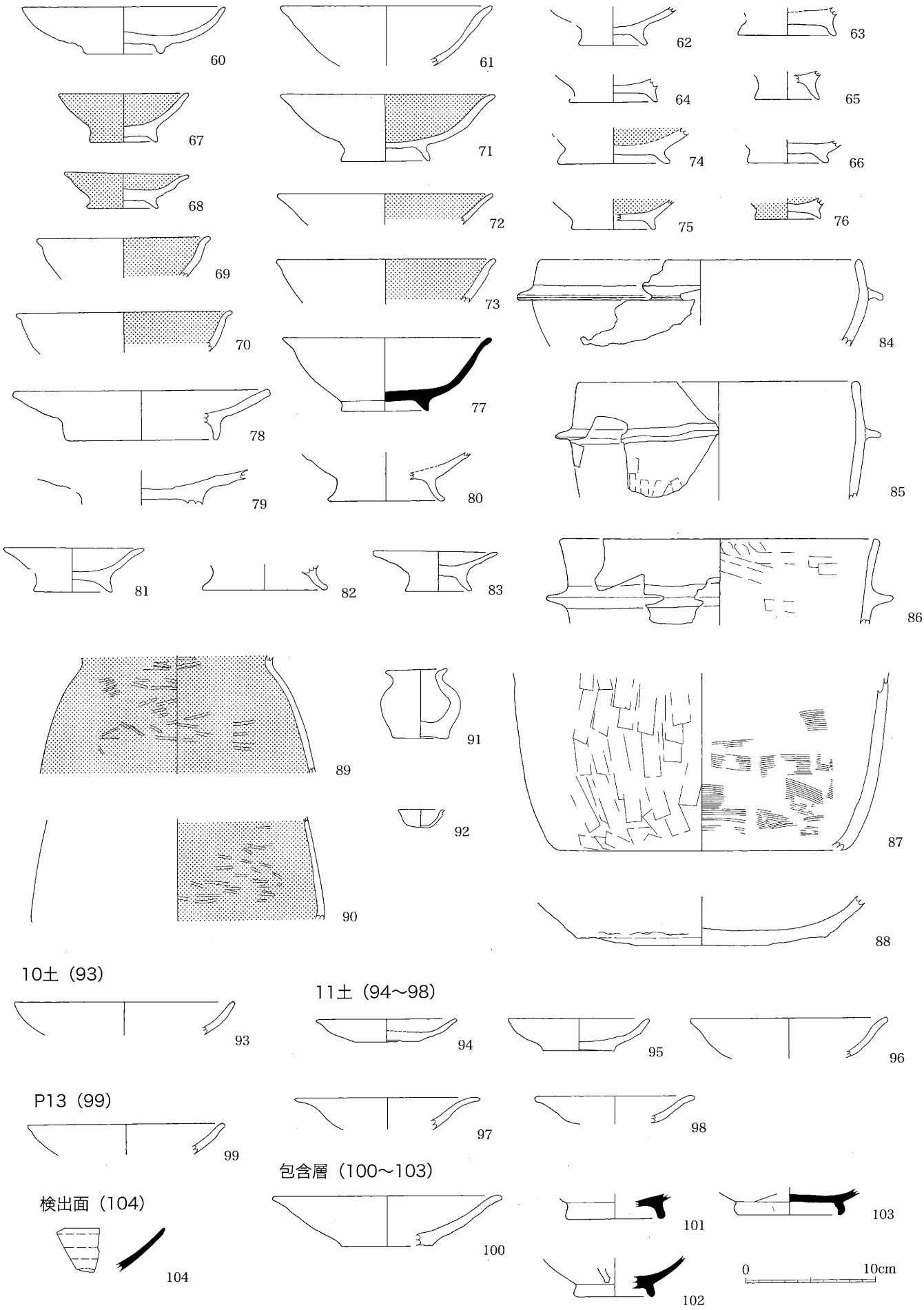

8土
1 にぶい黄色砂質土（2.5Y）
粒径15cmほどの淡黄色土粒混入
2 淡黄色（2.5Y8/4）粘質土
1層にブロック状に入る
第I号住居址覆土掘削中に検出
第I号住居址覆土を切る
土器片16点出土、1住カマド内土器と接合
P4
607.20m
暗灰黄色シルト質土（2.5Y6/1）
11層上面検出 16土を切る
P6
607.30m
灰黄色土（2.5Y7/2）
11層上面検出
P7
607.30m
黄灰色土（2.5Y6/1）
11層上面検出
P8
607.30m
暗灰黄色土（2.5Y5/4）
11層上面相当検出
1住を切る
P9
607.20m
1 灰白色土（2.5Y7/1）
2 黄灰色土（2.5Y6/1）
11層上面相当検出 土器片1点
P10
607.30m
褐灰色土（10YR6/1）
11層上面検出
P11
607.30m
灰白色土（2.5Y7/1）やや粘質
11層上面相当検出 1住を切る
P12
607.30m
灰白色土（2.5Y7/1）
11層上面相当検出
1住を切る 土器片1点出土
焼土範囲1
607.20m
灰黄色土（2.5Y6/2）
焼土少量混入
11層上面検出
焼土範囲2
607.20m
11層上面検出
1 暗灰黄色（2.5Y5/2）
粒径5mmほどの焼土粒、土塊混入
2 暗灰黄色（2.5Y5/2）
上層よりやや暗い
9土
607.20m
1 灰黄色土（2.5Y6/2）
2 灰黄色土（2.5Y6/2）1よりやや暗い
3 黄灰色土（2.5Y6/1）
4 黄灰色砂質土（2.5Y6/1）
10土
607.10m
暗灰黄色土（2.5Y5/2）しまりなし、粒径1cmほどの
焼土粒・塊・炭化物少量混入 16層上面検出
底面の地山礫（16層中の礫）被熱 土器片5点出土
16土
11土
607.20m
11土
11層掘削中検出
焼土面有り
11土 1 暗灰黄色土（2.5Y5/3） 粒径5mmほどの灰黄色土（2.5Y6/2）混入、 粒径3cmほどの
焼土粒・炭化物混入、褐色土粒（7.5YR4/4）混入 土器片84点出土 95～98は土器No.
607.20m
16土
11層掘削中検出
16土 2 暗灰黄色砂質土（2.5Y5/2）粒径8mmほどの炭化物粒、粒径1cmほどの焼土粒混入
11土の覆土との差は明確でないため同一の土坑の可能性もある。 土器片5点出土
15土
607.10m
1 黄褐色シルト質土（2.5Y5/3）
砂粒混入
16層上面検出
12土
607.10m
1 灰黄色粘質土（2.5Y6/2）褐色土（7.5YR4/4）土粒多量に混入、覆土かは不明
2 灰黄色粘質土（2.5Y6/2）焼土粒・塊少量混入 11層掘削中検出
17土
607.10m
1 灰黄色粘質土
（2.5Y6/2）
2 灰黄色粘質土
1層より明るい
3 黄灰色粘質土
（2.5Y6/1）砂粒混入
4 黄灰色粘質土（2.5Y6/1）砂粒混入、3層よりやや暗い
11層中検出 土器片1点出土
18土
607.00m
暗灰黄粘質土（2.5Y5/2）
11層中検出
19土
607.10m
灰黄色粘質土（2.5Y6/2）
16層上面検出
P5
606.90m
灰黄色粘質土（2.5Y6/2）
13層上面検出
P14
607.20m
灰黄色粘質土（2.5Y6/2）
11層中検出
P19 P25
607.10m
P19 暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）
P25 灰黄色粘質土（2.5Y6/2）
16層上面検出
P20
607.00m
暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）
13層上面検出
P22 P21
607.10m
P21 黄灰色粘質土（2.5Y5/1）
P22 黄灰色粘質土（2.5Y5/1）
16層上面検出
P27
607.10m
暗灰黄色砂質土（2.5Y5/2）
粒径1cm大の礫混入
16層上面検出
P28
607.00m
暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）
16層上面検出
P29
607.00m
灰黄色粘質土
（2.5Y6/2）
13層上面検出
P30
607.10m
灰黄色粘質土（2.5Y6/2）
16層上面検出
P31
607.10m
灰黄色粘質土（2.5Y6/2）
16層上面検出
P32
607.10m
暗灰黄色砂質土（2.5Y5/2）
16層上面検出
P33
607.10m
灰黄色砂質土（2.5Y6/2）
16層上面検出
P34
607.10m
黄灰色粘質土（2.5Y6/1）
16層上面検出
P36
607.00m
灰黄色砂質土（2.5Y6/2）
16層上面検出
○ 土器 ⁘ 焼土範囲
● 礫
土坑8,10,11,12,16はS=1/60
その他はS=1/40
0 S=1/40 1m
0 S=1/60 2m
P37
607.00m
暗灰黄色砂質土
（2.5Y5/2）
16層上面検出
P39
607.20m
にぶい黄褐色シルト質土（10YR4/3）
11層中検出
P16
P16 灰黄色砂質土
（2.5Y6/2）
13層上面検出 土器片1点出土
P23
P23 灰黄色砂質土
（2.5Y6/2）
16層上面検出
P24
607.00m
P24 黄灰色粘質土
（2.5Y6/1）
16層上面検出

第5図　検出遺構（2）

1住（1～92）



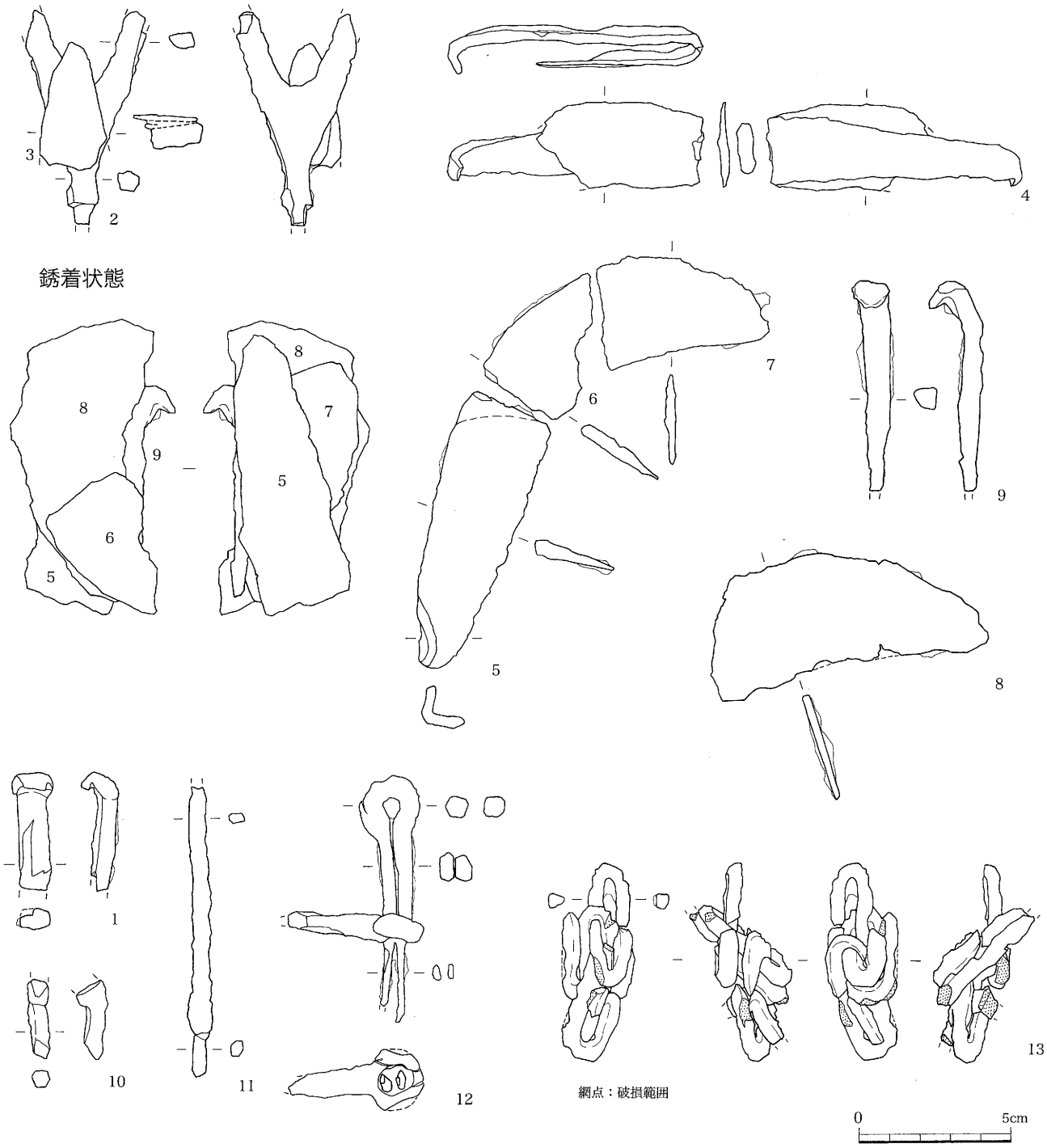
第6図　土器・陶磁器（1）


60
61
62
63
64
65
67
71
74
66
68
72
75
76
69
73
84
70
77
78
85
79
80
81
82
83
86
89
91
87
92
90
88
10土（93）
93
11土（94～98）
94
95
96
P13（99）
97
98
99
包含層（100～103）
検出面（104）
100
101
103
104
102
0
10cm

第7図　土器・陶磁器（2）

第1表　出土土器・陶磁器観察表

NO.	出土地点	種別	器種器形	寸法(cm) 口径	底径	器高	残存度	成形・調整・形態	実測番号	注記	備考
1	1住	土師器	杯AII	7.9	3.8	2.2	口1/8、底完	ロクロナデ、底面回転糸切	1住55	1住167	カマド内出土
2	1住	土師器	杯AII	8.0			口1/5	ロクロナデ	1住34	1住047	
3	1住	土師器	杯AII	8.1			口1/4	ロクロナデ	1住19	1住144	
4	1住	土師器	杯AII	8.5	4.1	1.3	口1/4、底2/3	ロクロナデ、底面回転糸切	1住26	1住046・188・202	
5	1住	土師器	杯AII	8.8	4.2	1.6	口欠、底2/3	ロクロナデ、底面回転糸切	1住11	1住094・086	
6	1住	土師器	杯AII	8.9	5.2	1.8	口1/6、底完	ロクロナデ、底面回転糸切	1住25	1住109	
7	1住	土師器	杯AII	8.8			口1/4	ロクロナデ	1住10	1住141	
8	1住	土師器	杯AII	9.1	4.9	1.6	口4/5、底完	ロクロナデ、底面回転糸切	1住24	1住105	
9	1住	土師器	杯AII	9.1	5.4	1.3	口1/4、底1/5	ロクロナデ、底面回転糸切	1住18	1住159	カマド内出土
10	1住	土師器	杯AII	9.6	4.8	2.3	口1/2、底完	ロクロナデ、底面回転糸切	1住5	1住186・187	
11	1住	土師器	杯AII	9.4	4.7	2.3	口1/3、底完	ロクロナデ、底面回転糸切	1住21	1住034・187	
12	1住	土師器	杯AII	9.4	4.8	2.1	口1/2、底5/6	ロクロナデ、底面回転糸切	1住13	1住037・080・084・189・197・199	
13	1住	土師器	杯AII	9.5	5.2	1.9	口完、底完	ロクロナデ、底面回転糸切	1住22	1住019	
14	1住	土師器	杯AII	9.8	4.6	1.6	口1/5、底3/4	ロクロナデ、底面回転糸切	1住28	1住152	
15	1住	土師器	杯AII	9.7	5.3	2.1	口1/2、底5/6	ロクロナデ、底面回転糸切	1住12	1住010・034・035・036	
16	1住	土師器	杯AII	9.6	3.0	2.1	口1/4、底1/8	ロクロナデ、底面回転糸切	1住54	1住160・170	カマド内出土
17	1住	土師器	杯AII	10.1	5.3	2.1	口3/5、底完	ロクロナデ、底面回転糸切	1住23	1住153	
18	1住	土師器	杯AII	10.3	5.0	2.5	口1/8、底1/2	ロクロナデ、底面回転糸切	1住52	1住166	カマド内出土
19	1住	土師器	杯AII	10.0	5.0	2.3	口1/2、底完	ロクロナデ、底面回転糸切	1住7	1住009	
20	1住	土師器	杯AII	9.8			口1/4	ロクロナデ	1住56	1住183	
21	1住	土師器	杯AII	10.6	4.8	1.7	口1/3、底1/2	ロクロナデ、底面回転糸切	1住4	1住173	カマド内出土
22	1住	土師器	杯AII	10.4	5.2	1.4	口1/6、底1/5	ロクロナデ、底面回転糸切	1住16	1住068	
23	1住	土師器	杯AII	10.5	4.9	2.0	口1/6、底1/4	ロクロナデ、底面回転糸切	1住8	1住100	
24	1住	土師器	杯AII	10.6	4.4	2.1	口1/12、底1/3	ロクロナデ、底面回転糸切	1住9	1住146	
25	1住	土師器	杯AII	10.6	4.8	2.0	口1/5、底1/3	ロクロナデ、底面回転糸切	1住61	1住174	カマド内出土
26	1住	土師器	杯AII	10.0			口1/2	ロクロナデ	1住53	1住187	
27	1住	土師器	杯AII	10.5	6.1	1.3	口1/4、底1/2	ロクロナデ、底面回転糸切	1住15	1住130	
28	1住	土師器	杯AII	11.4	5.7	1.7	口1/2、底1/2	ロクロナデ、底面回転糸切	1住51	1住172・179	カマド内出土
29	1住	土師器	杯AII	11.5			口1/8	ロクロナデ	1住57	1住193	カマド内出土
30	1住	土師器	杯AII	10.8	4.9	2.4	口1/8、底1/2	ロクロナデ、底面回転糸切	1住60	1住178	カマド内出土
31	1住	土師器	杯AII	11.1			口1/4	ロクロナデ	1住33	1住006	
32	1住	土師器	杯AII	11.6			口1/10	ロクロナデ	1住71	1住193	カマド内出土
33	1住	土師器	杯AII	8.0	4.8	2.8	口1/5、底3/4	ロクロナデ、底面回転糸切	1住14	1住023	
34	1住	土師器	杯AII	9.8	5.7	1.6	口1/4、底1/4	ロクロナデ、底面回転糸切、内黒	1住45	1住064・124	
35	1住	土師器	杯AIII	11.8	4.0	3.1	口1/3、底1/4	ロクロナデ、底面回転糸切	1住27	1住074	
36	1住	土師器	杯AIII	12.0	5.5	3.2	口3/4、底完	ロクロナデ、底面回転糸切	1住31	1住005	
37	1住	土師器	杯AIII	12.1			口1/5	ロクロナデ	1住3	1住167・171	カマド内出土
38	1住	土師器	杯AIII	12.6			口1/8	ロクロナデ	1住6	1住111	
39	1住	土師器	杯AIII	14.0	6.1	3.9	口1/2、底完	ロクロナデ、底面回転糸切	1住2	1住166・167・170・171	カマド内出土
40	1住	土師器	杯AIII	14.3			口1/8	ロクロナデ	1住68	1住087	
41	1住	土師器	杯AIII	14.9			口1/12	ロクロナデ	1住67	1住085	
42	1住	土師器	杯AIII		6.6		底1/3	ロクロナデ、底面回転糸切	1住40	1住015	
43	1住	土師器	皿AI	13.8			口1/5	ロクロナデ	1住17	1住150	
44	1住	土師器	皿AI	14.2			口1/3	ロクロナデ	1住32	1住051・076	
45	1住	土師器	皿AI	14.5			口1/5	ロクロナデ	1住70	1住175	カマド内出土
46	1住	土師器	皿AI	15.7	6.3	3.5	口1/3、底4/5	ロクロナデ、底面回転糸切	1住58	1住164	カマド内出土
47	1住	土師器	皿AI	16.4	5.6	3.7	口1/2、底完	ロクロナデ、底面回転糸切	1住20	1住168・192	カマド内出土
48	1住	土師器	皿AI	16.4			口1/5	ロクロナデ	1住64	1住164	カマド内出土
49	1住	土師器	皿AI	17.0	6.3	3.8	口1/5、底完	ロクロナデ、底面回転糸切	1住1	1住169	カマド内出土
50	1住	土師器	皿AI	16.7	5.7	3.8	口1/4、底完	ロクロナデ、底面回転糸切	1住59	1住170・192・194	カマド内出土
51	1住	土師器	皿AI	16.6			口1/3	ロクロナデ	1住63	1住175	カマド内出土
52	1住	土師器	皿AI	16.9	6.4	4.3	口1/2、底完	ロクロナデ、底面回転糸切	1住66	1住165	カマド内出土
53	1住	土師器	皿AI	16.8			口1/12	ロクロナデ	1住65	1住194	カマド内出土
54	1住	土師器	皿AI	16.9			口1/5	ロクロナデ	1住30	1住119	
55	1住	土師器	皿AI	17.7	6.0	2.9	口1/16、底1/4	ロクロナデ、底面回転糸切	1住29	1住072・186・197	
56	1住	土師器	耳皿	9.6	4.9	2.4	口1/3	ロクロナデ、底面回転糸切	1住41	1住040・189	
57	1住	土師器	鉢	22.6			口1/5	ロクロナデ、内面ミガキ	1住44	1住165～167・176・177・191	カマド内出土
58	1住	土師器	鉢	22.1			口1/12	ロクロナデ	1住79	1住154	
59	1住	土師器	鉢		9.9		底完	ロクロナデ、底面回転糸切、内黒	1住83	1住163	カマド内出土
60	1住	土師器	椀	15.6	6.2	3.6	口1/6、底1/8	ロクロナデ、底面回転糸切、付高台	1住35	1住067・068・070・102	
61	1住	土師器	椀	16.2			口1/4	ロクロナデ	1住37	1住025	
62	1住	土師器	椀		5.3		底完	ロクロナデ、底面回転糸切、付高台	1住74	1住180	カマド内出土
63	1住	土師器	椀		7.6		底完	ロクロナデ、底面回転糸切、付高台	1住75	1住125	
64	1住	土師器	椀		6.8		底1/2	ロクロナデ、底面回転糸切、付高台	1住73	1住149	
65	1住	土師器	椀		5.0		底1/5	ロクロナデ、付高台	1住76	1住195	
66	1住	土師器	椀		6.3		底完	ロクロナデ、底面回転糸切、付高台	1住36	1住012	
67	1住	土師器	椀	10.0	5.2	3.8	口1/5、底1/2	ロクロナデ、底面回転糸切、付高台、内面ミガキ、内外黒	1住47	1住033・043	
68	1住	土師器	椀	9.6	5.5	2.7	口1/2、底2/3	ロクロナデ、底面回転糸切、付高台、内面ミガキ、内外黒	1住46	1住018	
69	1住	土師器	椀	13.4			口1/5	ロクロナデ、内面ミガキ・黒色	1住81	1住193	カマド内出土
70	1住	土師器	椀	16.6			口1/6	ロクロナデ、内面ミガキ・黒色	1住82	1住155・156	
71	1住	土師器	椀	16.5	6.8	5.2	口1/10、底完	ロクロナデ、底面回転糸切、付高台、内面ミガキ・黒色	1住86	1住050・065・066	
72	1住	土師器	椀	16.6			口1/6	ロクロナデ、内面ミガキ・黒色	1住62	1住162・197	カマド内出土
73	1住	土師器	椀	16.8			口1/15	ロクロナデ、内面ミガキ・黒色	1住80	1住170	カマド内出土
74	1住	土師器	椀		8.6		底完	ロクロナデ、底面回転糸切、付高台、内面ミガキ・黒色	1住85	1住137	
75	1住	土師器	椀		6.4		底1/4	ロクロナデ、底面回転糸切、付高台、内面ミガキ・黒色	1住87	1住136	
76	1住	土師器	椀		5.0		底1/2	ロクロナデ、底面回転糸切、付高台、内面ミガキ、内外黒	1住48	1住003	
77	1住	灰釉	椀	16.1	6.7	5.7	口1/2、底完	ロクロナデ、底面回転糸切、付高台	1住88	1住132	
78	1住	土師器	盤A	19.8	11.8	3.8	口1/12、底一部	ロクロナデ、付高台	1住72	1住193・196	カマド内出土
79	1住	土師器	盤A					ロクロナデ、底面回転糸切、付高台	1住69	1住162	カマド内出土
80	1住	土師器	盤B		8.9		底1/4	ロクロナデ、底面回転糸切、付高台	1住78	1住118	
81	1住	土師器	盤B	10.8	6.1	3.4	口1/5、底完	ロクロナデ、底面回転糸切、付高台	1住39	1住007・008・029・196	
82	1住	土師器	盤B		9.7		底1/4	ロクロナデ、付高台	1住77	1住112	
83	1住	土師器	盤B	9.6	5.1	3.1	口完、底完	ロクロナデ、底面回転糸切、付高台	1住38	1住002	
84	1住	土師器	羽釜	24.6			口一部	ヨコナデ、ナデ、鍔貼付	1住92	1住071・186	
85	1住	土師器	羽釜	21.6			口1/4	ヨコナデ、ナデ、鍔貼付、外面工具ナデ	1住89	1住135・138・142	
86	1住	土師器	羽釜	24.6			口1/5	ヨコナデ、ナデ、鍔貼付、内面工具ナデ	1住90	1住053・139・140・202	
87	1住	土師器	羽釜		22.3		底一部	外面工具ナデ、内面ハケメ	1住50	1住059・060・061・075・078・092・113・121・133・145	
88	1住	土師器	羽釜？		19.0		底1/6	内外面ミガキ	1住91	1住158、土8-001	1住158カマド内出土
89	1住	土師器	甕				胴1/5	内外面ミガキ・黒色	1住49	1住048・079・134・192	
90	1住	土師器	甕				胴1/3	外面ナデ、内面ミガキ・黒色	1住84	1住126・151・182・184・191	
91	1住	土師器	小形甕	4.8	4.3	5.3	口完、底完	ロクロナデ、底面回転糸切	1住42	1住024	
92	1住	土師器	手捏ね	3.5	1.6	1.4	口2/3、底完	手捏ね	1住43	1住001	ミニチュア
93	10土	土師器	椀	16.9			口1/6	ロクロナデ	10土1	10土006	
94	11土	土師器	杯AII	10.8	5.2	1.8	口1/6、底5/8	ロクロナデ、底面回転糸切	11土3	11土021・023	
95	11土	土師器	杯AII	10.8	5.5	2.5	口1/4、底7/12	ロクロナデ、底面回転糸切	11土4	11土012	
96	11土	土師器	杯AIII	15.2			口1/12	ロクロナデ	11土5	11土013	
97	11土	土師器	皿AI	14.2			口1/8	ロクロナデ	11土1	11土010	
98	11土	土師器	皿AI	12.3			口1/6	ロクロナデ	11土2	11土009	
99	P13	土師器	杯AIII	15.2			口1/6	ロクロナデ、内面ミガキ	P13-1	P13-003	
100	包含	土師器	皿AI	17.6	7.2	3.9	口1/12、底1/12	ロクロナデ、底面回転糸切	包含4	包含083	
101	包含	灰釉	椀		7.6		底1/4	ロクロナデ、底面回転ケズリ	包含2	包含074	
102	包含	灰釉	椀		6.2		底1/6	ロクロナデ、底面回転糸切、付高台	包含1	包含056	
103	包含	灰釉	椀		6.6		底一部	ロクロナデ、底面回転ケズリ	包含3	包含095	
104	検出	白磁	椀				口1/12	ロクロナデ、施釉	検出1	検出001	



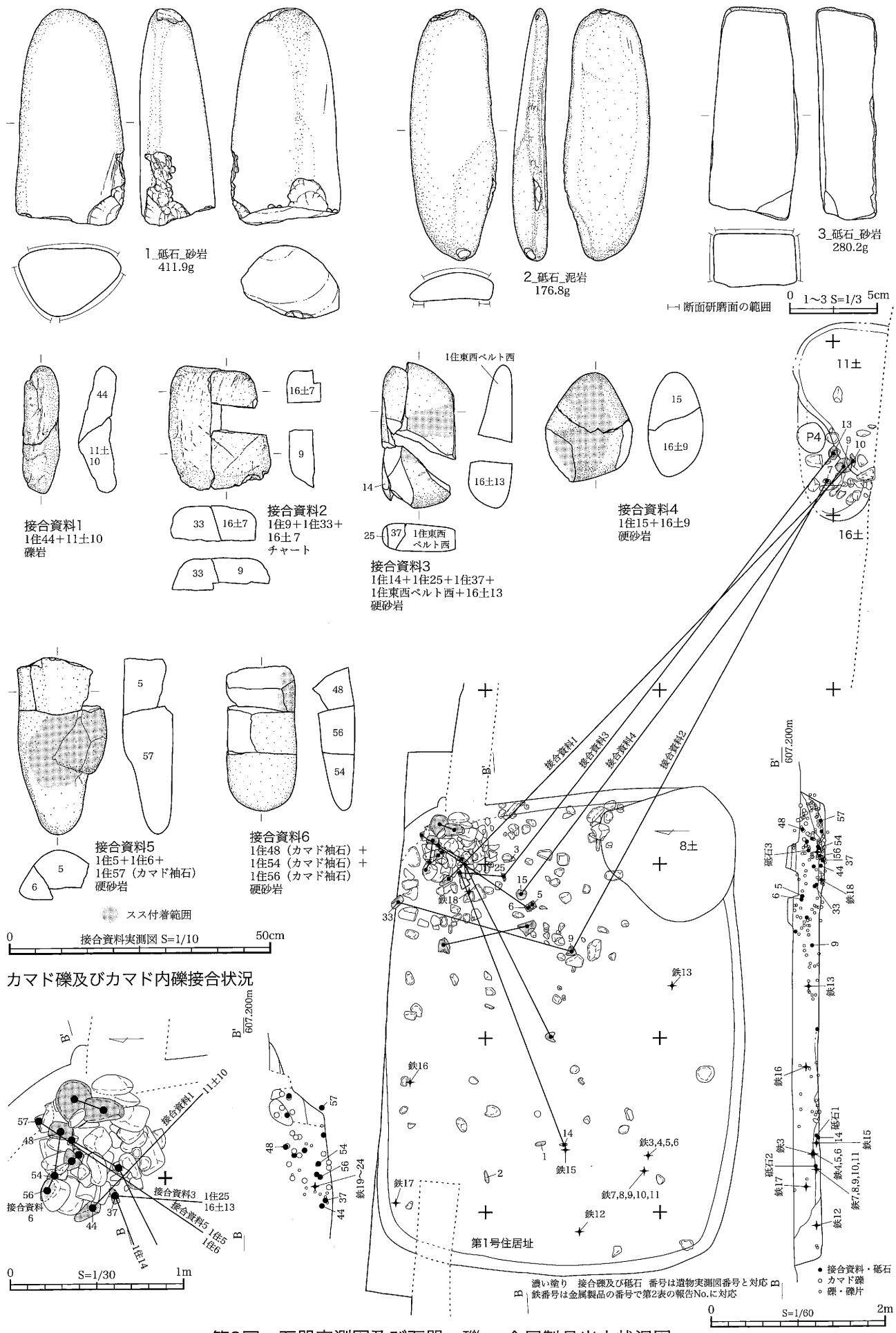
第8図　金属製品

第2表 金属製品一覧表

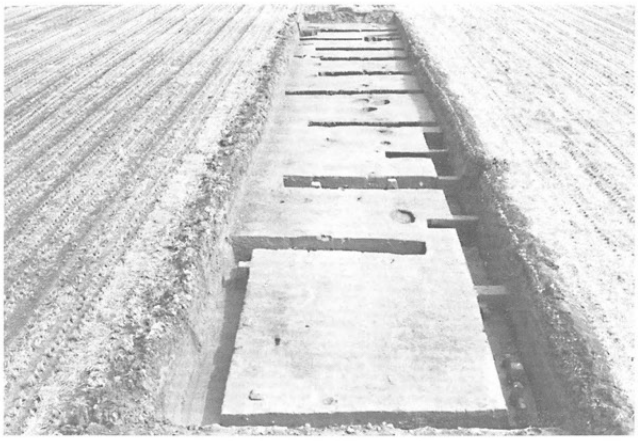
報告No	図No	荷札情報	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	備　考
1		トレンチ9	不明	(43.0)	(10.2)	6.8	2.3	釘？
2		トレンチ14	銭	(22.7)	(9.7)	(1.1)	0.9	元□□寶
3	1	1住	釘	(38.8)	13.2	21.0	7.8	
4	2	1住	鏃	(70.1)	(38.4)	(8.0)	22.2	雁又鏃　鉄片を挟んで5と銹着
5	3	1住	鏃	(41.0)	(21.6)	(3.1)		鉄片を挟んで4と銹着
6	4	1住	鎌	(84.2)	(28.2)	(13.7)	31.6	
7	5	1住	鎌	(90.7)	(31.8)	12.5	26.3	基部　8･9と同一個体
8	6	1住	鎌	(47.3)	(34.4)	6.3	9.3	7･9と同一個体
9	7	1住	鎌	(57.2)	(34.7)	5.7	9.9	7･8と同一個体
10	8	1住	鎌	(90.6)	(39.0)	6.3	25.3	
11	9	1住	釘	(69.5)	(12.7)	13.5	10.1	
12	10	1住	不明	(25.5)	(10.2)	7.0	2.4	鎖の一部?
13	11	1住	鏃	(95.3)	(8.8)	8.6	8.2	長頸鏃

報告No	図No	荷札情報	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	備　考
14	12	1住	不明	80.7	19.2	9.2	23.1	
				(44.3)	(19.7)	8.9		
15		1住	鉄滓	53.7	30.7	22.9	57.7	
16		1住	鉄滓	29.7	27.5	11.3	8.9	木質部付着
17		1住	不明	(33.5)	(30.0)	(5.5)	5.4	板状
18	13	1住	鎖	65.2	(33.1)	(23.8)	22.2	長楕円環5個の連結
19		1住 カマド	鉄滓	31.0	25.5	24.4	19.0	暗灰色　多孔
20		1住 カマド	鉄滓	33.9	21.3	17.8	14.6	暗灰色　多孔
21		1住 カマド	鉄滓	27.1	20.4	12.2	7.2	暗灰色　多孔
22		1住 カマド	鉄滓	24.2	12.4	8.3	2.6	暗灰色　多孔
23		1住 カマド	鉄滓	17.8	12.0	8.2	1.5	暗灰色　多孔
24		1住 カマド	鉄滓	16.1	12.3	7.4	1.3	暗灰色　多孔

最大長・最大幅・最大厚の単位はmm、重量はｇ　1・2はA地区、3～24はB地区



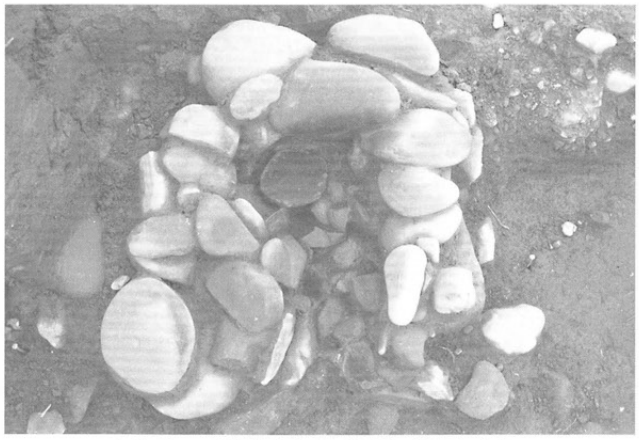
第9図 石器実測図及び石器・礫・金属製品出土状況図



A地区全景（西から）

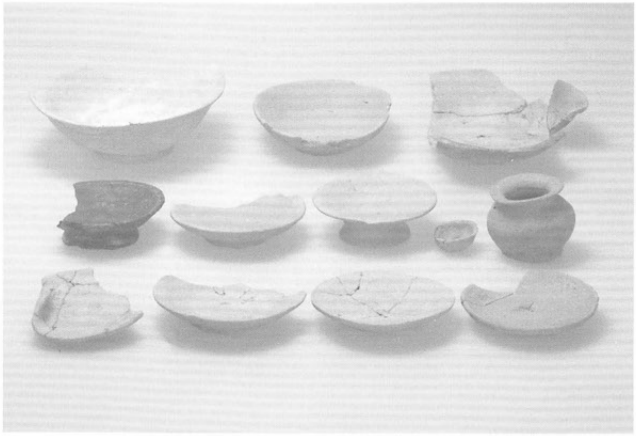
B地区全景（西から）

1住（西から）



1住カマド遺物出土状況（西から）

11・16土礫出土状況（北から）



1住土器・陶器

1住金属製品（1）

1住金属製品（2）

抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし　ひらたほんごういせき　だい6じはっくつちょうさほうこくしょ
書名	長野県松本市　平田本郷遺跡　第6次発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	松本市文化財調査報告
シリーズ番号	No.195
編著者名	直井雅尚　三村竜一　内田陽一郎
編集機関	松本市教育委員会
所在地	〒390-0874　長野県松本市大手3-8-13　TEL0263-34-3000（代） (記録・資料保管：松本市立考古博物館　〒390-0823　松本市中山3738-1　TEL0263-86-4710)
発行年月日	2008（平成20）年 3月31日　（平成19年度）

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
平田本郷（ひらたほんごう）	長野県松本市（ながのけんまつもとし）平田西2丁目222番1、223番1、256番1、258番（ひらたにし）	20202	293	36度11分33秒	137度57分39秒	2006.10.04～2006.12.05	358m²	松本市による平田駅西口線道路築造

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平田本郷	集落跡	平安時代	竪穴住居址　1 土坑　10 ピット　29 焼土範囲　2	土器・陶磁器 （土師器、須恵器、灰釉陶器） 金属製品 石器	多量の土器片を伴う石組みカマド 銹着した金属製品

要約	平田本郷遺跡は奈良井川と田川に挟まれた複合扇状地の扇央部に立地する遺跡である。今回の発掘調査はA・Bの2地区に分けて調査を行った。A地区では溝状地形が検出され、明確な遺構は確認できなかった。B地区では竪穴住居址1軒、土坑10基、ピット29基、焼土範囲2ヶ所が検出された。本報告書ではB地区で検出された遺構・遺物の報告に主体を置いた。平安時代の竪穴住居址からは石組みカマドが検出され、カマド内から多量の土器片が出土した。カマドの機能停止後の一様相がうかがえる。住居址覆土中及びカマド内出土土器92点を図示した。また、覆土中から異なる器種の金属製品がまとまり銹着した状態で出土した。

松本市文化財調査報告No.195

長野県松本市

平田本郷遺跡

― 第6次発掘調査報告書 ―

発行日　平成20年3月31日
発行者　松本市教育委員会
〒390-0874　長野県松本市大手3丁目8番13号
印刷　株式会社二光印刷